

来年は はぐるま4半世紀

今年は 培った力を発揮する年に

このところの社会現象や地球環境・特に気象状況の異常な狂いを誰もが感じながらも将来への期待感を胸に秘め、新たな年を迎えました。平穏な日々を願って暮らす人々の前に現れる事象を一人ひとりが喜怒哀楽を込めて受けとめています。

地域社会に生きる人々が一人では生きていけないことを再認識させ

られ、相互に持っている力を発揮していくことが求められています。

「社会福祉法人はぐるまの会が地域に果たす役割は・・・」を模索していきます。

そのような、将来展望へ一歩近づくように具体的な行動をしていきましょう。

前号でお知らせした、年末のぼや騒ぎは

地域の方の理解が、どれほど私たちにとても必要であったかを実感し、仲間や職員も

地域の中で暮らし、働いている事をもっと自覚していかなくてはならないことを、再

確認した出来事でした。



大地震が起こったら・・・

麻生区の活動より

「地域の防災ネットワーク」懇談会に参加

しました。「障害者当事者団体が、災害時の

地域での動きを学び、地域には災害弱者と

なる人々がいることを町会自治会の皆様に

知っていただく意見交換の場」という主旨

に、賛同し参加してきました。

・ 自分たちの住んでいる町会、自治会の連

携の重要性

・ 施設の場所・人数・障害の内容を、町会

に伝え、どのような手助けが必要かを把

握する。

・ 自らの身を守るためには、事前準備・備

品の整備・事前学習の必要性。

NO.26

2007年 2月 8日

社会福祉法人
はぐるまの会

広報委員会

後援会

川崎市多摩区菅馬場

1-18-17

TEL 044-946-1308

・避難所の生活、多大なストレスがかかる
避難所での生活に障害を持った人たち
を、どのように支援していくか。

・福祉施設職員として、どのような活動が
できるのか。

《登録制度》

・災害時の連絡体制・情報の共有のため障
害を持った方々・施設の登録を、自主的
に行うようにしていく。

以上のことが話し合われました。

多摩区より

「災害救援ボランティアセンター」の立ち
上げよう！

多摩区でも災害や・防災に対する意識、日
頃からの備え等の検討が始まりました。



《連載》ホームの今

はぐるま共働学習ホーム

通称 第一ホームより

ホームは最低人数、四人からしか認可さ
れませんでした。自立支援法になってから、
二人の住まいも認められたので、3LDK
の間取りに、三人定員とし、個室を確保し
ました。そして夫婦の住まいを、隣のアパ
ートに構え、合計五人のホームとして平成
十七年十月より新生活を開始しました。

支援法は悪い事ばかりが目についていま
したが、こんな新しいやり方もできるのか、
と少しばかり誉めようか、なんて思ったの
もつかの間、難題発生！！

夫婦のケアホーム活用に待ったがかかって
います。何故！！

夫婦として自立しているのだから、ホーム
でなくてもよい、との見解だそうです。

これに対して、将来は完全な自立を目指す
ものの、そこに至るまではまだホームの支
援がたくさん必要な状態であり、是非認め

て欲しいと要望書を提出しています。

さて、そうは言っても五人の生活は始まっ
ています。

男性四人の中に女性が一人入る事によつて
食事の席の和やかな事、おしゃべりも弾み
ます。食事を作る職員さんのお手伝いをし
ながら、作り方の勉強をしたり、後輩の仲
間の話し相手になったりと、ホーム生活の
長い仲間が上手に場を和ませてくれます。

ある日 仲間がオセロを持ってきたのが
きっかけで、忙しい時間の合間に、ゲーム
を楽しむようになりました。仲間同士や、
職員との対戦で盛り上がり、生活の中にま
違った団欒が生まれました。会話でのコ
ミュニケーションが難しい仲間も、楽しい
雰囲気を感じているようです。

食事後は、三人の仲間と、夫婦世帯と別
れてそれぞれの日課を過ごします。

今後は、様々なホームの型ができることで
しょう。

ホームトピックス

ホームの型いろいろ・・・の中に、結婚をして二人で自立をめざす仲間がいます。そしてこの度「ホームからの卒業」という仲間がいますので、お便りをいただきました。

一人暮らしについて

長原 綾

私はずうっと前から、一人ぐらしをしたいと思っていました。作業所の仲間や職員さんや、ホームの世話人さんにも、なんかいもなんかいも、いつてきました。もちろん家のかそくの人とも、なんどもなんどもはなし合いをしました。そのねがいがあったことになって、今年の二月一日 木ようび、第四ホームをそつぎようして、登戸で一人ぐらしがはじまりました。今までホームの仲間四人で、ぶんだんして係の仕事をやっていましたが、これからは、いろんなことを、一人でやっていかなければいけません。

いそがしいけれど、私が自分でえらんだみちだから、なんのくいもありません。いまはいろいろなりようりを、はべるまの、しよくいんや、ヘルパーさんに、おかすをたくさん、たくさんおしえてもらって、たのしくやっています。とんとん、じぶんできるおかすをぶやしていきたいと思っています。これからもおしえてもらうことが、たくさんあると思いますが、どうぞよろしくおねがいします。

※作業所で「長原さんが一人ぐらしを始めますよ」と自治会の代表から話があったとき、受け止める仲間たちの表情はいろいろ、(次は僕の番だな) と思った仲間も数人はいるようです・・・希望している仲間の、一人暮らしをどのように支えていくのか、大きな課題となりますが、社会資源を有効に使いつながら、自立の道を考えていかなければならぬいでしょう。

長原さんの希望に満ちた心情は、文章か

ら伺えます。今まで培った力を充分発揮され、選んだ道をまっすぐに歩んでください。

卒業 おめでとう！がんばってね。



花ハウスだより

《第二作業所仲間自治会より》

私たちは昨年十一月より、喫茶店の営業に入りました。内容は

- ・ 開店前に商品を並べ、製品をそろえる。
- ・ 床そうじ、テーブルふき
- ・ 看板だし

十一時からお客様が入り営業開始

あいている時間に近所の方に宣伝チラシのポスティングをします。

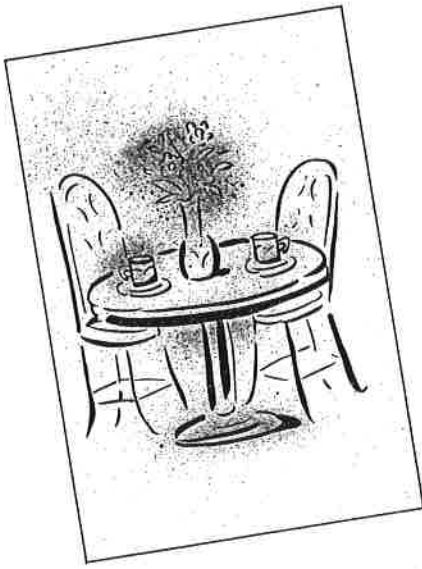
チラシを見て、来てくれる方もいるので、

またがんばります。

お客様は午後からが多くなり、今のところ
コーヒーの売上げが一番多いです。紅茶や
昆布茶・ケーキセットも売れるようになり
ました。ケーキはお菓子教室の「シユウケ
ット」の藤本葉子さんの手づくりで注文の
数だけ届けてくれます。飲み物の他に、
おにぎりセット（十六穀米おにぎり2個・
みそ汁・つけ物）
パンセット（パン・スープ）のような軽食
も出すことになりました。

営業日がり日間が増え、お客さんも増えて
きました。毎日来てくれる荒井さんは、お
なじみさんになってくれました。
みなさまお誘い合わせの上、お待ち申し上
げます。

第二作業所仲間代表 山田俊輔



《事業報告》

はぐるまとして
どのような看護体制を
望んでいるか？

昨年十月に、就労継続B型の契約を済
ませたばかりですが、十九年四月に向けて、
新事業「生活介護」を申請しています。

川崎市のほうからは、準備を始めてもよろ
しいとの回答（・・・取れそうだよ！との
見通しから）

早速 委託の医師・看護師の手配にかかっ
ています。

《医師》は現在も、かかりつけのような
病院・久地診療所の医師にお願いに上がり
ましたところ、良い方向で受けていただけ
るようです。久地診療所は仲間・職員共に
会員であること、多くの仲間が受診してい
ること等から、一番適切であると思えます。

《看護師》については、ナースセンター
に登録をし、条件の合う方を探してもらっ
ています。

健康相談を月一回、設けます

仲間はもちろん、保護者・職員も対象
とします。各作業所を月一回 巡回し
てもらいますので、近くの作業所に来
て、相談ができるようにしていきます。

・ 仲間の健康カルテ作り

個々の現状が分かりやすいように整理
します。

☆ちよつとした体調の変化を、どのように
したらよいか、迷う場合が多々あります。
その様なときの相談ができるとういです
ね。常駐の勤務ではないので、緊急の場
合等の課題はありますが、勤務される方
と相談しながら進めます。

